九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

オープンアクセスに関するアンケート調査2024

九州大学附属図書館OAサポートチーム

https://hdl.handle.net/2324/7357477

出版情報：2025-04-30. Kyushu University Library
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution 4.0 International

オープンアクセスに関するアンケート
（九州大学附属図書館）

概要

*You can change the language from Japanese to English by upper right corner.

2024 年 2 月に内閣府が公表した「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」*により、2025 年度新規公募分から、公的資金による学術論文等（査読付き学術論文及び根拠データ）の即時オープンアクセス（OA）が義務づけられます。

この方針を受け、本学における研究成果発信に関する支援体制の整備・充実を図るため、本学構成員のオープンアクセス(OA)**に関する認識およびニーズの把握を目的としたアンケート調査を実施いたします。

いただいた回答は、オープンアクセス出版のための論文掲載料（APC）支援や、本学の機関リポジトリ***である「九州大学学術情報リポジトリ(QIR)」での論文公開などを検討するにあたり、重要なデータとなります。

ご多用のところ恐れ入りますが、回答へのご協力よろしくお願いいたします。

また、ご回答いただいた方には、お礼の品をお渡しいたします。詳細は、アンケート末尾をご覧ください。

対象者：本学に所属する教員・大学院生（博士課程）等
所要時間：15 分前後（最小 26 問～最大 43 問）
※選択した回答によって表示される質問数は異なります。

本アンケートは匿名で回答できます。
回答結果は、個人が特定されない形で集計し、附属図書館のホームページや学内外の会議等で公開予定です。

参考：オープンアクセスとは（九州大学附属図書館）：
https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/top

*学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（内閣府）：https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf
*「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」の実施にあたっての具体的方策（内閣府）：
https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf
**オープンアクセス（OA）：論文などの学術情報を、インターネットを介して、無料で誰もが自由に利用できるようにすること
***機関リポジトリ：大学などの研究機関が、所属研究者の論文などを収集・保存・公開するデータベース。原則誰でも無料でアクセスできる。

問い合わせ先：九州大学附属図書館 OA サポートチーム
lib_oa@ml.jimu.kyushu-u.ac.jp

1_あなたご自身について

〇1-1. あなたのご所属を選択してください。複数の所属がある方は主となるものを選択してください。★必須
a: 人文科学府・人文科学研究院
b: 地球社会統合科学府・比較社会文化研究院
c: 人間環境学府・人間環境学研究院
d: 法学府・法学研究院
e: 経済学府・経済学研究院
f: 言語文化研究院
g: 理学府・理学研究院
h: 数理学府・数理学研究院
i: システム生命科学府
j: 医学系学府・医学研究院
k: 歯学府・歯学研究院
l: 薬学府・薬学研究院
m: 工学府・工学研究院
n: 芸術工学府・芸術工学研究院
o: システム情報科学府・システム情報科学研究院
p: 総合理工学府・総合理工学研究院
q: 生物資源環境科学府・農学研究院
r: 統合新領域学府
s: 法科大学院（ロースクール）（法務学府）
t: 専門職大学院ビジネススクール（経済学府産業マネジメント専攻）
u: 専門職大学院（人間環境学府実践臨床心理学専攻）

v: 専門職大学院（大学院医学系学府医療経営・管理学専攻）
w: 高等研究院
x: 基幹教育院
y: 生体防御医学研究所
z: 応用力学研究所
aa: 先導物質化学研究所
bb: マス・フォア・インダストリ研究所
cc: カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所
dd: 情報基盤研究開発センター
ee:その他（自由記述）

〇1-2. あなたのご身分を選択してください。複数の身分がある方は主となるものを選択してください。　　★必須

a: 教授
b: 准教授
c: 講師
d: 助教
e: 准助教
f: 助手
g: 学術研究員
h: 非常勤研究員
i: 医員
j: 技術専門職員
k: 大学院生（博士課程）
l: その他（自由記述）

〇1-3. あなたの主たる研究分野を選択してください。（ドロップダウン）★必須
科学研究費補助金の審査区分表「中区分」を元にしています。
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/shinsakubun.html

A-1: 思想、芸術
A-2: 文学、言語学
A-3: 歴史学、考古学、博物館学
A-4: 地理学、文化人類学、民俗学
A-5: 法学
A-6: 政治学
A-7: 経済学、経営学
A-8: 社会学

A-9: 教育学
A-10: 心理学
B-11: 代数学、幾何学
B-12: 解析学、応用数学
B-13: 物性物理学
B-14: プラズマ学
B-15: 素粒子、原子核、宇宙物理学
B-16: 天文学
B-17: 地球惑星科学
C-18: 材料力学、生産工学、設計工学
C-19: 流体工学、熱工学
C-20: 機械力学、ロボティクス
C-21: 電気電子工学
C-22: 土木工学
C-23: 建築学
C-24: 航空宇宙工学、船舶海洋工学
C-25: 社会システム工学、安全工学、防災工学
D-26: 材料工学
D-27: 化学工学
D-28: ナノマイクロ科学
D-29: 応用物理物性
D-30: 応用物理工学
D-31: 原子力工学、地球資源工学、エネルギー学
D-90: 人間医工学
E-32: 物理化学、機能物性化学
E-33: 有機化学
E-34: 無機・錯体化学、分析化学
E-35: 高分子、有機材料
E-36: 無機材料化学、エネルギー関連化学
E-37: 生体分子化学
F-38: 農芸化学
F-39: 生産環境農学
F-40: 森林圏科学、水圏応用科学
F-41: 社会経済農学、農業工学
F-42: 獣医学、畜産学
G-43: 分子レベルから細胞レベルの生物学
G-44: 細胞レベルから個体レベルの生物学
G-45: 個体レベルから集団レベルの生物学と人類学
G-46: 神経科学

H-47: 薬学
H-48: 生体の構造と機能
H-49: 病理病態学、感染・免疫学
I-50: 腫瘍学
I-51: ブレインサイエンス
I-52: 内科学一般
I-53: 器官システム内科学
I-54: 生体情報内科学
I-55: 恒常性維持器官の外科学
I-56: 生体機能および感覚に関する外科学
I-57: 口腔科学
I-58: 社会医学、看護学
I-59: スポーツ科学、体育、健康科学
I-90: 人間医工学
J-60: 情報科学、情報工学
J-61: 人間情報学
J-62: 応用情報学
K-63: 環境解析評価
K-64: 環境保全対策
L: その他（自由記述）

2_自身の論文発表

△2-1. ご自身が*責任著者となる場合、どのくらいの頻度で論文を発表/出版しますか？★必須
このアンケートでの「論文」は、「ジャーナル（紀要・学会誌含む）に投稿する論文」の他、「国際会議や国内研究会で発表した論文」も含みます。「学位論文」や「授業の課題として提出するレポート」等は含みません。

*責任著者：論文の投稿・査読・出版プロセスにおいて責任を負う著者。ジャーナル編集者との連絡窓口となる場合が多い。

a: 1 年に 5 本以上　→設問 2-2. へ
b: 1 年に 3～4 本　→設問 2-2. へ
c: 1 年に 1～2 本　→設問 2-2. へ
d: 上記よりも長いスパンで論文を発表する　→設問 2-2. へ
e: 論文投稿経験なし　→設問 3-1.（次のセクション） へ

~~~~　2-1. 「a, b, c, d」 を選択した人のみ　~~~~
~~~~

〇2-2. 論文を出版する機会の多い出版社等を 1～3 つ程度選択してください。（複数回答可）★必須

a: American Chemical Society (ACS)
b: American Institute of Physics (AIP)
c: BioMed Central (BMC)
d: Elsevier
e: Frontiers Media
f: Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
g: IOP Publishing (IOP)
h: Multidisciplinary Digital Publishing Institute (MDPI)
i: Oxford University Press (OUP)
j: Royal Society of Chemistry (RSC)
k: SAGE Publications
l: Springer Nature
m: Taylor & Francis
n: Wiley
o: その他国際学会および出版社
p: その他国内学会および出版社
q: 紀要
r: その他（自由記述）

〇2-3. ジャーナルに論文を投稿する場合、その投稿先を選ぶ理由として当てはまるものをすべて選択してください。（複数選択可）★必須
a: 自身の研究分野に合致する
b: 投稿から公開までにかかる時間が短い
c: 論文がアクセプトされやすい
d: ジャーナルのインパクトファクターが高い
e: ジャーナルの知名度が高い
f: 論文が Scopus、Web of Science、CiNii 等のデータベース検索でヒットする
g: 出版社や査読プロセスが信頼できる（ハゲタカジャーナルではない等）
h: 論文投稿料やオープンアクセス論文掲載料（APC）等の出版にかかる費用が安い
i: 同僚（教員/研究員/大学院生 等）からの勧め
j: 自身の所属する学会・研究会が発行しているジャーナルである
k: その他

2-4. ご自身の*ORCID を取得していますか？★必須
*ORCID（Open Researcher and Contributor ID）：研究者のための識別番号。ORCID を使用することで、研究成果や業績を一元的に管理し、他の研究者や機関と円滑に連携することができます。

ORCID についての詳細は、下記ページをご参照ください。https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/pid/orcid

a：取得している
b：取得していない

~~~~ 2-1. 分岐合流（ここから全員回答） ~~~~

3_オープンアクセス（OA）*全般に関すること

3-1. オープンアクセス（OA）に関するご経験・意見について

*オープンアクセス（Open Access・OA）：論文などの学術情報を、インターネットを介して、無料で誰もが自由に利用できるようにすること。

3-1-1. オープンアクセス（以後、OA と表記）という言葉を知っていましたか？ ★必須

a：知っていた　→設問 3-1-2. へ
b：知らなかった　→設問 3-2-1. へ

~~~~ 以下 3-1-7. まで、3-1-1. 「a：知っていた」 を選択した人のみ ~~~~

○3-1-2. OA についてご自身が持つイメージに合致するものを選択してください。（複数選択可） ★必須

a：引用されやすくなる
b：自身の評価につながる
c：自身の研究分野の発展につながる
d：社会貢献につながる
e：共同研究の拡大につながる
f：費用がかかる
g：論文が不正に使われてしまう
h：ハゲタカジャーナルの被害に遭う恐れがある
i：その他（自由記述）

○3-1-3.＊「九州大学オープンアクセス方針」（2017 年運用開始）を知っていますか？ ★必須
*九州大学オープンアクセス方針：https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/qir/oa_policy

*九州大学オープンアクセス方針実施要領：https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/sites/default/files/kyushu_u_oap_guide_j.pdf

a: 知っている
b: 知らなかった

〇3-1-4. 自身の論文を OA にしたことがありますか？　★必須
a: ある　→設問 3-1-5. へ
b: ない　→設問 3-1-7. へ
c: わからない　→設問 3-1-7. へ

~~~~　3-1-4. 「a:ある」 を選択した人のみ　~~~~

〇3-1-5. どのようにして論文を OA にしましたか？（複数選択可）　★必須

a: 所属機関のリポジトリ（著者最終稿を含む）に登録した
b: 分野リポジトリに登録した
c: プレプリントサーバー(arXiv など)に登録した
D:フル OA ジャーナル（すべての論文が OA で公開されるジャーナル）に投稿した
e: ハイブリッドジャーナル（論文ごとに著者が OA にするかどうか選択する方式のジャーナル）で OA を選択した
f: ジャーナル側の判断により、自身の選択にかかわらず OA になった
g:その他（自由記述）

〇3-1-6. 設問 3-1-5. の回答について、なぜその方法を選択したか教えてください。（複数選択可）　★必須

a: 投稿先の性質・判断に従った
b: 九州大学オープンアクセス方針に従った
c: 研究助成機関のポリシー、助成条件等に従った
d: OA 論文掲載料（APC）を支払う予算の都合
e: 大学（附属図書館、研究・産学官連携推進部等）から APC の支援を受けられそうだったから
f: リポジトリへの登録状況が、部局の予算の増額につながるから　※教員のみ
g: 分野やコミュニティの規範・慣習に従った
h: 共著者や他の研究者のリクエストに従った
i: 特に理由はない(他の選択肢は選択しないでください)
j: その他（自由記述）

~~~~　3-1-4. 分岐合流　~~~~

〇3-1-7. OA およびそれを取り巻く状況について、感じていることやご意見があれば教えてください。（自由記述）

~~~~ 3-1-1. 分岐合流（ここから全員回答） ~~~~

3-2. 国の即時 OA 方針について

2024 年 2 月に内閣府より公表された*「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（以下、「国の即時 OA 方針」）に基づき、2025 年度以降、新規に公募する競争的研究費による研究成果（学術論文等）は、学術雑誌への掲載後、機関リポジトリ等へ即時に掲載することが義務づけられます。

詳細は下記ページをご参照ください。
https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/top

*学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（内閣府）：https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf
*「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」の実施にあたっての具体的方策（内閣府）： https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf

〇3-2-1. 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」について、知っていましたか？ ★必須

a: 知っていた →設問 3-2-2. へ
b: 知らなかった →設問 3-2-3. へ

~~~~ 3-2-1. 「a:知っていた」 を選択した人のみ ~~~~

〇3-2-2. 国の即時 OA 方針の内容について、知っていた項目をすべて選択してください。（複数選択可）★必須

a: 即時 OA の対象となるのは、2025 年度から新規に公募する競争的研究費（JST、JSPS、AMED）による研究成果である。
b: 論文だけでなく、論文の根拠データ（研究データ）も公開義務の対象に含まれる。
c: 研究成果は、学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリなどへ掲載しなければならない。
d: 公開猶予期間（エンバーゴ）などを理由に、即時に OA で公開できない場合は、その理由を実績報告の際に報告しなければならない。
e: 知っている項目はない。（他の選択肢は選択しないでください）

~~~~ 3-2-1. 分岐合流（ここから全員回答） ~~~~
~~~~

〇3-2-3. 国の即時 OA 方針を支持しますか？★必須

a: 支持する
b: 支持しない

〇3-2-4.　設問 3-2-3.の選択の理由について、可能な範囲で教えてください。（自由記述）

〇3-2-5. 即時 OA 義務化による研究者の負担を最小限にするために、大学にどのようなサポートを期待しますか？（複数選択可）★必須

a: 機関リポジトリへの登録作業のサポート・簡略化
b: OA 論文掲載料（APC）の費用補助
c: 出版社との交渉、より有利な条件での契約
d: 論文執筆に関する費用面の支援（英文校閲費など）
e: 論文執筆に関するツール・システムの支援（執筆補助ツール、ウェブサービスなど）
f: 研究業績管理システム（Q-RADeRS や researchmap）への登録作業のサポート・簡略化
g: ハゲタカジャーナル等に関する情報提供
h: その他（自由記述）

4_Gold OA について

4-1. *Gold OA の経験に関すること

*Gold Open Access（Gold OA・ゴールドオープンアクセス）：著者支払い型の OA の出版モデル。論文が受理された後、著者が APC（論文をオープンアクセスにするためにかかる論文掲載料）を出版社に支払うことによって、論文が OA で出版される。

〇4-1-1. 論文を Gold OA で出版したことはありますか？　★必須

a: ある　→設問 4-1-2. へ
b: ない　→設問 4-1-3. へ

~~~~　4-1-1. 「a:ある」 を選択した人のみ　~~~~

〇4-1-2. 論文を Gold OA で出版した理由について、あてはまるものを全て選択してください。（複数回答可）　★必須

a: 投稿したジャーナルがフル OA ジャーナルだったから
~~~~

b: 助成機関もしくは、所属機関のポリシーだったから（助成条件、OA 方針等）
c: 自分の研究成果を広く認知してもらいたいから
d: 引用される可能性が高まるから
e: フィードバックを得られる可能性が高まるから
f: 共同研究に繋がる可能性があるから
g: 科学の発展やオープンサイエンスの推進に寄与したいから
h: 大学（附属図書館、研究・産学官連携推進部等）から APC の支援を受けられそうだったから
i: 特に理由はない(他の選択肢は選択しないでください)
j: その他（自由記述）

~~~~ 4-1-1.「b:ない」 を選択した人のみ ~~~~

4-1-3. 論文を Gold OA 出版しなかった／できなかった理由として当てはまるものを全て選択してください。(複数選択可) ★必須

a: 投稿したジャーナルが OA での出版に対応していなかったから
b: 助成機関のポリシー（助成条件等）ではなかったから
c: 分野やコミュニティでは OA は一般的ではなかったから
d: 資金が無かったから
e: OA のメリット（認知度の向上、引用可能性、科学推進等）を実感できないから
f: ニーズがないと思うから
g: OA ではない発表方式のほうが良いと思うから
h: 特に理由はない（他の選択肢は選択しないでください）
i: その他（自由記述）

~~~~ 4-1-1. 分岐合流（ここから全員回答） ~~~~

4-1-4. *ハイブリッドジャーナルに出版する論文を、OA にするかどうかを決める判断材料はありますか？当てはまるものを全て選択してください。（複数選択可） ★必須
*ハイブリッドジャーナル：掲載される個々の論文ごとに、OA 論文掲載料（APC)を負担してＯＡにするかどうかを著者が選択する方式の雑誌。

a: ハイブリッドジャーナルには論文を投稿しない（他の選択肢は選択しないでください）
b: 自身の予算の状況
c: 投稿したジャーナルの APC の価格
d: 投稿したジャーナルの信頼性
e: 投稿したジャーナルのインパクトファクターや分野での影響度
f: 投稿した論文の内容

g: 特にない（他の選択肢は選択しないでください）
h: ハイブリッドジャーナルでは、常に OA を選択しない（他の選択肢は選択しないでください）
i: 常に OA を選択する（他の選択肢は選択しないでください）
j: その他（**自由記述**）

4-2. 図書館が実施するオープンアクセス出版のための論文掲載料（APC）支援について

附属図書館では、オープンアクセス出版のための論文掲載料（APC）支援として、2024 年より、Elsevier、RSC、Wiley の 3 つの出版社と「OA 出版モデル契約（転換契約）」を締結しました。
これにより本学所属の論文著者は、３社の対象ジャーナルにおいて、APC 定価の３割の負担で論文を OA で出版することが出来ます。さらに、国の OA 加速化事業に係る補助金により、期間限定（2024 年 8 月～2025 年 2 月）で、すべての出版社等に支援対象を拡大する「期間限定 APC 支援拡大キャンペーン」を実施しています。
参考：APC の支援情報（九州大学附属図書館）https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/gold/apc

〇4-2-1. 図書館が実施しているオープンアクセス出版のための論文掲載料（APC）支援は知っていましたか？ ★必須

a: 知っていて、利用したこともある →設問 4-2-3. へ
b: 知っていたが、利用したことはない →設問 4-2-2. へ
c: 知らなかった →設問 4-2-3. へ

~~~~ **4-2-1. 「b:知っていたが、利用したことは無い」 を選択した人のみ** ~~~~

〇4-2-2. 図書館が実施している APC 支援を利用していない理由として、当てはまるものをすべて選択してください。（複数選択可）★必須

a: APC が課されるジャーナルに投稿していない
b: APC が出版社・学会によって免除された
c: 論文を OA にする必要性を感じなかった
d: 著者の負担額が高額で、支払いが困難だった
e: 支援を利用しなくても、自身の予算によって APC 全額の支払いが可能だった
f: 出版時期や投稿ジャーナル等が APC 支援の対象外だった
g: その他（自由記述）
~~~~

~~~~　4-2-1. 分岐合流（ここから全員回答）　~~~~

〇4-2-3. 図書館が実施している APC 支援では、OA 出版負担金として、著者は投稿ジャーナルの APC の 3 割の額を支払う必要があります。現在の負担額（2024 年度実績：平均 15 万円前後）について、どう思いますか？　★必須

a: 自身の予算状況では経費負担できず、高い
b: 自身の予算状況では経費負担できるが、高い
c: 妥当である
d: 安い
e: わからない

4-2-4. OA 出版負担金として支払うことのできる上限額を教えてください。なお、負担金は OA 出版モデル契約（転換契約）等の費用に充てられます。　★必須

a: 50 万円以上
b: 50 万円
c: 30 万円
d: 25 万円
e: 20 万円
f: 15 万円
g: 10 万円
h: 5 万円
i: 経費負担がある場合は論文を OA にしない

〇4-2-5. 著者が負担する OA 出版負担金の金額の算出方法として、最も望ましいと思うものを選択してください。★必須

a: APC の一定割合（※現在の運用）
b: 定額（全出版社一律、または出版社ごとに設定など）
c: わからない
d: その他

〇4-2-6. 著者が負担する金額に差をつける場合、どのような基準によるのが良いと思いますか？当てはまるものをすべて選択してください。（複数選択可）★必須

a: 職位
b: 年齢
c: 予算（外部資金の獲得状況等）
d: 出版するジャーナルの評価・指標（インパクトファクター、Top ジャーナル等）
e: わからない
~~~~

f：その他（自由記述）

〇4-2-7. その他、図書館が実施している APC 支援に関して、ご意見や期待することがあれば教えてください。（自由記述）

4-3. 研究・産学官連携推進部が実施する国際学術論文掲載料支援について

研究・産学官連携推進部では、**国際学術論文掲載料支援**として、九州大学に所属する教員、学術研究員等のうち、若手研究者を対象に、Top10%ジャーナル論文に係る論文掲載料等の支援を実施しています。
参考：国際学術論文掲載料支援（九州大学 学術研究・産学官連携推進本部）※学内限定
https://airimaq.kyushu-u.ac.jp/university-relations-only/publication-fee-support/

〇4-3-1. 研究・産学官連携推進部が実施している国際学術論文掲載料支援は知っていましたか？ ★必須

a：知っていた（利用経験の有無は問いません） →設問 4-3-2. へ
b：知らなかった →設問 4-3-5. へ

~~~~ 4-3-1. 「a:知っていた」 を選択した人のみ ~~~~

〇4-3-2. 国際学術論文掲載料支援をどのように知りましたか？当てはまるものをすべて選択してください。（複数選択可）★必須

a：研究・産学官連携推進部のウェブサイトを見た
b：研究・産学官連携推進部または部局事務部から国際学術論文掲載料支援の案内メールが来て知った
c：同僚（教員/研究員/大学院生等）から聞いた
d：その他（自由記述）

〇4-3-3. 国際学術論文掲載料支援を利用したことがありますか？ ★必須

a：利用したことがある（まだ採択の可否の連絡は来ていないが、申請中の場合も含みます）
→設問 4-3-5. へ
b：利用したことはない →設問 4-3-4. へ
~~~~

~~~~ 4-3-3. 「b：利用したことはない」 を選択した人のみ ~~~~

〇4-3-4. 国際学術論文掲載料支援を利用していない理由として当てはまるものを選択してください。（複数選択可） ★必須

a：Top10%ジャーナルに論文を投稿したことがない
b：申請要件である「若手研究者」に合致していない
c：申請要件である「第一著者」または「責任著者」として論文を発表していない
d：外部資金を年間 300 万円以上獲得していることから支援の対象外だった
e：その他（自由記述）

~~~~ 4-3-3. 分岐合流（ここから全員回答） ~~~~

〇4-3-5. 国際学術論文掲載料支援に関して、ご意見や期待することがあれば教えてください。（自由記述）

5_ 九州大学学術情報リポジトリ（QIR）について

九州大学学術情報リポジトリ(QIR)は、九州大学の機関リポジトリです。
九州大学の研究者は、自らの研究成果（論文の PDF 等）を QIR に登録することで、インターネットを通じて世界へ発信できます。

*九州大学学術情報リポジトリ（QIR）：https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_browse/papers/
*QIR について（九州大学附属図書館）：https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/qir/qir

〇5-1. QIR の存在を知っていましたか？知っていた場合、QIR に研究成果を登録したことはありますか？★必須

a：存在を知っていて、登録したことがある →設問 5-2 へ
b：存在を知っていたが、登録したことはない →設問 5-4 へ
c：存在を知っていたが、登録したことがあるかわからない →設問 5-6 へ
d：存在を知らなかった →設問 5-6 へ

~~~~ 5-1. 「a:登録したことがある」 を選択した人のみ ~~~~
~~~~

〇5-2. 以下のうち、どの方法で登録しましたか？（複数選択可）★必須

a: Q-RADeRS から（Q-RADeRS への業績入力時に研究成果のファイルをアップロード）※教員のみ
b: 図書館 Web サイトのマイページから
c: 図書館担当者へのメール
d: 事務職員等による代理登録
e: 紀要等の担当者による登録
f: その他（自由記述）

〇5-3. 登録した理由を全て選択してください。（複数選択可）★必須

a: 大学（部局や図書館等）から登録を勧められたから
b: 研究成果を広く認知してもらいたいから
c: 投稿先が QIR 登録対象誌だったから（紀要等）
d: 部局の予算の増額に繋がるから　※教員のみ
e: 研究成果を大学内で保管したいから
f: QIR 以外の場所（出版社の Web サイト等）で研究成果を公開できなかったから
g: 分野やコミュニティの規範・慣習に従ったから
h: 特に理由はない(他の選択肢は選択しないでください)
i: その他（自由記述）

~~~~ **5-1「b と d: 登録したことがない」を選択した人のみ** ~~~~

〇5-4. 登録したことがない理由を全て選択してください。（複数選択可）★必須

a: 既に QIR 以外の場所（出版社の Web サイト等）で公開しているから
b: 時間がないから・面倒だから
c: 登録するメリットがないから
d: 登録方法がわからないから
e: 最終出版版以外（著者最終稿など）を公開したくないから
f: 分野やコミュニティで推奨されていないから
g: QIR で研究成果を公開できない理由があったから →次の質問にご回答ください
h: 特に理由はない（他の選択肢は選択しないでください）
i: その他（自由記述）

〇5-5. 上記 5-4 で「g」を選択した方にお尋ねします。QIR で研究成果を公開できなかった理由を全て選択してください。（複数選択可）

a: 著作権者（出版社等）に許可を得られないから
b: 個人情報・プライバシーを含むから
c: 電子化することが難しいから
~~~~

d: 研究成果を一部（例：査読者、共著者など）に限定して公開したいから
e: 共著者の合意を得られないから
f: 特に理由はない（他の選択肢は選択しないでください）
g: その他（自由記述）

~~~~ 5-1.分岐合流（ここから全員回答） ~~~~

5-6. ご自身が責任著者となる論文について、*著者最終稿（Accepted Manuscript）を保管していますか？★必須
*著者最終稿（Accepted Manuscript）：査読が完了し、出版社から受理される直前に著者が提出した原稿（出版社によりレイアウト調整等の手が加えられていない版）。多くの出版社は、この「著者最終稿」の機関リポジトリでの公開を認めている。

a: 保管していることが多い
b: 保管していないことが多い
c: わからない

〇5-7. QIR に関して、ご意見や期待することがあれば教えてください。（自由記述）

6_インタビュー調査へのご協力

より詳しい状況をお尋ねするべく、インタビュー調査（30 分から 1 時間程度）の実施を計画しています（2025 年度実施予定）。
ご協力いただける方はお名前と連絡先を教えてください。

〇6-1. インタビュー調査へのご協力★必須
a: 可能　→設問 6-2 へ
b: 不可　→回答送信（アンケート終了）

~~~~ 6-1. 「a:可能」 を選択した人のみ ~~~~

〇6-2. お名前を教えてください。（自由記述）★必須
〇6-3. 連絡先（E-mail）を教えてください。（自由記述）★必須